

『蜻蛉日記』は、日本初の本格的な半生記です。中流貴族道綱母が、かの道長の父となる藤原兼家(母は時姫)という政界トップの家柄の男との二十一年間の結婚生活を、上中下三巻に描いています。

この結婚生活は、兼家との身分差や彼の磊落な性格、何よりも一夫多妻制と言われる制度などとのせいで、道綱母にとって満足できるものではありませんでした。

この認識に誤りはないのですが、もう一つ見逃せないのは、当時の女性貴族が、自分の心情特にやせぬない心情を言葉や文字に託すとすれば、和歌に託す他なかった点です。道綱母は、その典型でした。

顕著なのは、彼女は、贈答歌に

『和歌を力に生きる 一道綱母と蜻蛉日記』

出版社：新典社
発行年：2009年
著者：堤 和博



大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
基礎研究部門
堤 和博 つつみ かずひろ

よって兼家との愛情を確認・維持しようとする点です。それも理想は、兼家の贈歌に自分が返歌する形です。兼家から贈歌のない時には、不満を覚えながらも自ら歌を贈ることもありませぬ。道綱母は、和歌を力に生きていたのです。

ところが、道綱を出産してしばらくすると、兼家に町の小路の女と呼ばれる妻ができ、それ以降は嫉妬などで感情が激してしまった際には、兼家に対して和歌を詠めなくなる傾向が生じます。和歌を力に生きていた道綱母が、和歌の力にも縋れなくなってしまつたのです。ではどうするのか……。

以上のような、和歌を力に生きる道綱母の姿を、結婚生活の最初の五年間を描かれる『蜻蛉日記』上巻前半部分を取り上げて一般の平安文学愛好者向けに解説したのが本書です。



■日本学士院賞受賞記念事業

徳島大学卒業生で本学酵素科学研究センター助手、助教を務めた田中啓二氏(現 財団法人東京都医学研究機構東京都臨床医学総合研究所所長代行)が、第100回日本学士院賞を受賞したことを記念し、7月31日(土)、長井記念ホール(蔵本キャンパス)において市民公開講演会を開催し、田中氏から、蛋白質分解酵素複合体「プロテアソーム」を発見した経緯や若い研究者に対するメッセージなどが語られ、参加した約250人は熱心に耳を傾けていました。



引き続き、徳島大学栄誉賞授与式及び日本学士院賞受賞記念祝賀会を開催しました。「徳島大学栄誉

賞」は大学の名誉を多に高めた者に贈られるもので、田中氏が第一号の受賞となりました。授与式には、田中氏の恩師や同窓生をはじめ約80名が出席し、同氏の受賞を祝福しました。

■第14回 科学体験フェスティバル in 徳島

工学部では、子どもたちが実際に科学実験等に参加することを通じて、科学の楽しさや不思議さを知ってもらおうと、体験型イベント「科学体験フェスティバル in 徳島」を8月7日(土)、8日(日)の両日、同学部構内で開催しました。

14回目となる今回も「さわって、くくって、楽しい科学」をコンセプトに、工学部の各研究室、県内の小・中・高等学校や県内外の企業等から出展された47のブースとともに、小・中学生図画コンクール入賞作品展も開催しました。

今年の特別企画は、発光するロボットをリモコンで自由に動かして遊ぶ「エルボと遊ぼう」、大学で作られたロボットから市販のロボットまで色々なロボットを見て、触って、遊んで、仕組みを勉強する「目指せ！ロボット博士」など、職員や地元の企業が中心となり企画した6つのテーマからなる「ロボットワールド」で、子どもた

『徳大オープンスペースプロジェクト』

助任の丘

常三島団地ではTOP*により魅力的あるキャンパスを構築するためのキャンパスプランの提案が為されました(図1)。主な提案として、「助任の丘」や創立60周年記念事業の一環として採択された「シンボルストリート」が整備されています。

- 常三島キャンパス南西部は、高さ2mの境界壁で囲まれていて国道に面しているにもかかわらず外部からみえずに大学の存在すらわかりにくい状態でしたが、この壁を撤去し国道と大学構内との2mの高低差を利用して下記のコンセプトに基づき整備しました。
- ◎ゆるやかな「丘」からみえる大学らしい風景を内外へ発信
- ◎境界壁の撤去により開放的なランドスケープ
- ◎可視による防犯効果など安全への配慮
- ◎学生・教職員等の憩いの場の整備
- ◎アクセスの利便性、美観の整備

TOP 提案によるキャンパスプラン



*TOPとは(Tokudai Openspace Project) 学生、教員等で構成される常三島キャンパスの将来計画案を考案するグループ



石碑

屋根付き駐輪場(旧プール改修)

ースで目を輝かせながら思い思いに取り組んでいました。



■コミュニケーション マーク誕生

昨年、本学は創立60周年を迎え、各種記念事業も、好評裡に終えることができました。これもひとえに、皆様方のご支援、ご協力のお陰と、心から感謝しております。そし



て本年、61年目の新しい年を迎え、大学の理念である教育、研究、社会貢献等の達成のため組織を刷新し、大学の役割をこれまで以上に充実・発展していきます。

そこで、地域の皆様、学生、教職員及び関係者の皆様から愛され、地域社会から、より親しみを持っていただけようコミュニケーションマークを導入しました。

デザイン・コンセプトは、本学が60年間で培ってきた「進取の気風」をベースに、人が躍動し、个性的で未来に立方向かう教育研究の場をイメージし、殻を破るような勢いと水のような流動性を表現しています。5色は、「●優れた専門性、人間性に富む人格形成の場」「●真理を探究し、自由な発想による研究」「●地域社会と世界を結ぶ知的ネットワークの拠点」「●徳島の豊かな自然、眉山や城山など、都市の中の緑」「●吉野川をはじめ、潤いと恵みをもたらす水環境」といった意味を込めています。

徳島大学役職員の報酬・給与等の水準の公表について

国立大学法人の役職員の報酬・給与等については、国家公務員や民間企業の給与、法人の業務の実績を考慮し、社会般の情勢に適合したものとなるよう、各法人がそれぞれ支給の基準を定め、総務省の定めるガイドラインに基づき公表を行うこととなっています。

徳島大学もその趣旨に沿って、ホームページにおいて、平成21年度に支給した役員の報酬等、常勤職員の給与、職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標及び給人員件費等を公表しています。

詳しくは徳島大学ホームページの「大学紹介」→「情報公開・個人情報保護」→「法定公開情報」→「国立大学法人徳島大学の役職員の報酬・給与等について」をご覧ください。
http://www.tokushima-u.ac.jp/pdf2/h21kyuosujiyunkouyou.pdf